

第4回こんな長崎どがんです会（令和4年9月1日）

テーマ：本県が目指す「快適で儲かる魅力ある農業」の実現に向けて 参加者：8人（農業者）

主な意見	対応方針および対応状況
<p>（もうかる農業の発信について） 次世代にあこがれてもらうため、もうかる農業の姿を見せていくのがよい。</p>	<p>引き続き、生産者や農業団体等と一体となって、農地の基盤整備やスマート農業の導入などにより、規模拡大、低コスト化等を推進することで、快適で儲かる農業を実現し、農業への就農を推進してまいります。</p>
<p>（子育てしやすい環境について） 農業は、子供が病気の時など会社勤めの時よりも家族のフォローも受けやすく安心である。</p>	<p>農業は家族で支えあうことができ、子育てにも優しいことなど、快適で儲かる、暮らしやすい農業の魅力をしっかりとPRしてまいります。</p>
<p>（スマート農業について） スマート農業を進めるうえでデータ収集や共有は重要である。</p>	<p>スマート農業技術に関するデータの収集・分析を行い、地域の特性に応じた技術の改良などスマート農業の県内各地への普及・拡大を進め、快適で儲かる農業を実現してまいります。</p>
<p>（親元就農への支援について） 親元就農の場合は、新規就農者のような支援が受けられなかった。親元就農においても同じように支援して欲しい。</p>	<p>国において令和4年度に創設された、親元就農者も対象となる「経営発展支援事業」により機械等の導入を支援するとともに、引き続きフォローアップ等にも努め、親元で就農される方々をしっかりとサポートしてまいります。</p>
<p>（県産農畜産物のPRについて） 長崎の農畜産物のPRをもっと行ってほしい。</p>	<p>長崎和牛をはじめ本県農畜産物の更なる認知度向上や販売促進に向け、令和5年度は知事のトップセールスとして、大田市場ではみかんを、シンガポールでは長崎和牛やいちご、みかんを流通関係者や消費者へPRしております。今後とも旬の時期におけるトップセールスの実施や、SNSを活用した若い消費者への戦略的な情報発信など、農業団体とも連携して取組内容を充実してまいります。</p>
<p>（担い手への優良農地の集積について） 新規就農や規模拡大を希望した場合に優良農地がすぐに見つかるとうい。</p>	<p>農業委員会や市町等と連携し、集落内の合意形成を進め、経営規模を縮小される予定の農家とのマッチング等により、新規就農者や担い手への優良農地の集積を推進してまいります。</p>
<p>（耕作放棄地について） 今ある農地を荒らさないように、農地を引き継ぐ取組や、耕作条件の改善、機械が入るように整備して欲しい。</p>	<p>農地や施設等経営資源の第三者への継承については、関係機関と連携し、離農する生産者とのマッチング等を進めてまいります。また、耕作条件の改善等を図るため、農地の基盤整備事業の実施に向け、地域からの要望を踏まえ、合意形成等進めてまいります。</p>